

ふるさととは、そこに生まれ育った何人にとつても終生忘れ得ない心の拠り所であります。新しく誕生した三間町誌が、町民をはじめ、三間町にかかわりを持つ多くの人々によつて愛読され、その心を繋ぐ絆として愛され続けることを願つてやみません。

発刊に際して、甚大なるご協力を頂いた皆様方に改めて御礼申し上げ、発刊のご挨拶と致します。

平成六年十一月

三間町長 岩崎正巳

目次

「三間町誌」の発刊にあたって	1	第三節 その他	19
グラビア		アンチモニター坑・マンガン坑・鍾乳洞	
総説		生石灰製造・中間鉱泉	
第一編 自然		第三章 気候・生物	
第一章 位置・面積・人口	3	第一節 気候	21
第一節 位置	3	気象・気温・降水・日照時間・風	
第二章 面積・人口	4	第二節 生物	24
第一節 地勢・地質	6	植物・埋れ木と樹叢・古木と巨木・動物	
あらし・山系・河川・溜池・標高		第四章 変災	32
第二節 地質	13	藩政時代の変災・明治以降の変災	
日本列島の骨格形成・三間町の地質概要		町内の大きな火災	
地質区分と時代・その他三間町周辺地域の地質		第二編 歴史	
引用文献(参考図表)		第一章 縄文・弥生時代	
		第一節 縄文時代	37
		概説・金銅遺跡・馬根遺跡・中山池周辺の遺物・	
		三間高等学校校庭遺跡・土居中地区の独鈷状石器・	
		その他の遺物・姫島産黒曜石・海の道	
		第二節 弥生時代	42
		概説・甕棺と支石墓・新田神社裏山の壺形土器・	
		弥生人のくらし・石包丁の発見	

第二章 大和・飛鳥時代

第一節 大和(古墳)時代 46

概説・古墳時代の区分と特色・古墳の南限説・
入らずの森の西谷古墳・
円筒埴輪片出土「一ノ森古墳」・
箱形石棺の春日古墳

第二節 飛鳥時代 49

概説・潮もかないぬ・白村江の戦いと国土防衛・
宇和郡御馬山・日本書紀・持統天皇・伊予の国名・
国司・朝臣・田中法麻呂・宇和郡・御馬山とは・
幻の御馬山・白銀三斤八両緋一籠・みまの語源

第三章 奈良・平安時代

第一節 奈良時代 57

概説・律令政治の眼目・奈良時代の伊予・
その頃の農耕・税と徭役・その頃の宇和郡・
三間の神祇僧房・和銅開珎

第二節 平安時代 63

概説・平安中期の伊予の郡と郷・お大師さま・四国
遍路・四国八十八か所と竜光寺仏木寺・
その他の遺産・藤原純友・純友の乱・純友残照・
橘遠保と宇和郡・御墓大将・源平の盛衰と宇和郡・

鈴木三郎重家と三間

第四章 鎌倉時代 73

概説・宇和郡の地頭橘氏・新地頭西園寺実氏・
大律師宣俊仏木寺再興・大日如来像と弘法大師像・
曾我兄弟と曾我神社の伝承・平家の落人伝説・
この頃の農村風景・蒙古来る

第五章 南北朝時代 79

概説・伊予における武家方の動向・
伊予における官方の動向・
忽那氏と征西將軍懐良親王・
三間近郷における宮方武家方の動向・
後醍醐天皇の勅願所奈良山等妙寺・
三間の等妙寺末寺・勅願所としての等妙寺の役割・
懐良親王の動向・西園寺公俊と南北朝

第六章 室町時代 88

概説
第一節 宇和郡の諸將 90
前おき・旗頭西園寺氏
第二節 鬼北地方の武將 95
前おき・渡辺式部少輔教忠・芝一族・
土居三河守重宗・坪之内攝津守清俊清近

第三節 有馬(今城)殿 108

有馬殿今城氏の家系・武將能親・文人能親・
連歌「大神宮法楽伊予千句」・能信と能興・
能信風韻

第四節 中野(河野)殿 113

家系・「吉田古記」に見る神仏崇敬の河野氏・
「清良記」に見る河野氏の動向・

第五節 深田(竹林院)殿 118

河野氏と土居氏との確執・河野一族の最期
家系・「清良記」に見る竹林院の動向・
土居氏とのかかわり・それからの竹林院

第六節 土居殿 123

家系・石城の戦い・清良主従中村へ落ちる・
清良の大森帰城

第七章 安土・桃山時代 134

概説

第一節 土居清良の活躍 136

概要・軍制・土佐勢との合戦1・牛公事・
野村と山公事・三嶋大明神の神罰・
土佐勢との合戦2・河野へ加勢と熊野詣で・
清良の撫民・一条家の滅亡・

女軍等の活躍と土居七口の槍・

清良の中国参戦・岡本合戦・

芝美作守の内通と土佐勢の侵食・

大法会と西園寺の下城・清良の下城

第二節 小早川隆景の懐柔策 164

隆景公広の会見・隆景の禁制・

隆景清良に九州出陣を促す・隆景の転封

第三節 戸田勝隆の庄政 166

勝隆の入城・勝隆の庄政・検地刀狩り・

農民の抵抗・神木等の伐採・勝隆の最期・

戸田勝隆異聞・西園寺氏の最期

第四節 藤堂高虎の築城 173

高虎宇和郡七万石の領主・

高虎の大洲入城と民政・土居清良の終焉・

丸串城の築城・朝鮮出兵と関ヶ原の戦い・

十二万石加増と今治城築城・

今治入城とその後の高虎

第五節 富田信高の運河開削 178

信高宇和郡十萬石の領主・金剛山正眼院建立・

塩成の開削工事・信高改易

第六節 藤堂新七郎の天領治政 181

天領となる宇和郡・富田家の家臣救済・
三嶋神社々領寄進の約束・
秀頼の大坂籠城と板島城の緊張・
新七郎の出陣と板島城明け渡し

第七節 三間町の城塞跡 184

金山城・岩倉城・萩森城・茶臼ヶ森城・
鳥山ヶ森城・船越城・沢近城・黒井地城・
竹中城・雨乞城・齒長城・大森城・松峯城・
天神城・西城・中城・下城・新城・正徳森城・
城の森・岡本城・高森城・金銅城・城ノ森・
井関城・浪岡城・告森城・阿古目城・一ノ森城
第八節 戦国遺跡考 198

板山地の土居館跡・河野館跡・西園寺実充の墓・
武者塚・元成寺・姓氏録
資料一 土居氏の古城 205

はじめに・土居氏の館と城・
戦闘指揮所としての大森城・
戦略の前衛基地岡本城・控えの城としての新城・
西の防塁迫目西の城・血涙のあとを曝す石城・
おわりに
資料二 清良記・親民鑑月集 214

清良記の概要・清良記の著者・清良記の成立年代・
清良記の補記・親民鑑月集
資料三 土居清良余韻 223

第八章 江戸時代 229
概説

第一節 伊予八藩の成立 231
宇和島藩・吉田藩・大洲藩・新谷藩・
松山藩・今治藩・西条藩・小松藩・天領

第二節 宇和島藩の成立 232
伊達政宗と伊達秀宗・初代藩主秀宗の入部・
入部当時の宇和島・藩財政の窮乏・和靈騒動
第三節 吉田藩の成立 239
吉田藩三万石の誕生・分知された吉田藩の村浦・
家臣団の編成・職制・伊達三家の系譜

第四節 伊予吉田藩 245
吉田藩歴代簡記・吉田藩異聞
第五節 藩政時代の農村 250
農村の支配組織・農村経済・通貨と「預り」・
藩札・物価・景気の変動・貢租物成・
藩政時代資料用語の解説・その頃の農民の生活・
農民の共同体制

第六節 水利灌溉、特に溜池の築造 280
水利の概要・伊竜加尹両池の沿革・中山池の沿革

第七節 庄屋 287
三間の庄屋・庄屋の格付け・庄屋の職務と義務・
巡見使の接待・旧庄屋の屋敷と古文書

第八節 農民の決起 298
土居式部と樽屋兵衛・藩の秕政と農民の貧窮・
百姓一揆・是房の善六

第九節 水利・境界の論争 312
迫目光満の水利境界論争・
波岡と小沢川の水利紛争・
黒井地、明間の境界論争

第一〇節 宗翰の善政 313
藩主の民情視察・六か条の儉約令・その他の施政
第一一節 幕末の吉田藩 319
宇和島藩とのかかわり・藩主宗孝の行状

第九章 近代・現代 322
概説

明治期・大正期・昭和期
第一節 明治維新と吉田藩 326
版籍奉還と吉田藩・廃藩置県と吉田藩

第二節 維新期の地方自治制度の変遷 327
吉田県・宇和島県に合併・神山県と改称・
愛媛県誕生・大小区制とその変遷・
庄屋制廃止と戸長制度・民選戸長・官選戸長

第三節 維新期の三間の表情 332
野村騒動・三間騒動・神仏分離令・苗字を名乗る・
土地私有権・地租改正法の公布・新しい戸籍簿・
徴兵令・西南戦争・太陽暦・散髪勝手たるべし・
竜の金貨両から円・学校郵便局の設置・町村議會

第四節 町村制実施後の三間 347
町村制の発足・成妙村・三間村・二名村
第五節 近代における三間の躍進 361
官公庁舎等の設置・交通事情の発達・
音地地四国の開眼供養・
信用購買販売利用組合の設置・耕地整理の槌音・
出征兵士を送る・供出米一万五千俵の山・
欲しがりません勝つまでは

第六節 戦後を拓く三間 368
玉音放送・農地開放と預金封鎖・立ち上がる三間
第七節 三村合併への胎動 371
合併胎動の諸条件・町村合併促進法・準備委員の研

版籍奉還と吉田藩・廃藩置県と吉田藩

究協議会・合併促進協議会・その後の経過・廃村式
資料 合併までの当町選出県議会議員・
郡議会議員氏名録

第二編 地 誌

概 説 373
大字概観 379 377

是能・曾根・則・大藤・成家・黒井地・戸雁
宮野下・北増穂・小沢川・川之内・元宗・
増田・土居中・迫目・務田・中野中・波岡・
田川・金銅・土居垣内・古藤田・大内・兼近・
三間中間・黒川・音地・是延
三間町史跡図

第四編 行 政

第一章 町政四十年の歩み
第一節 三間町の誕生 427
開庁式・新町建設計画・新町長誕生・祝賀行事・
合併余話
第二節 昭和三〇年代の三間町 431
財政再建・庁舎建設・有線放送・是延の編入

失対事業と移民事業・簡易水道の設置・
優良町として全国表彰
第三節 昭和四〇年代の三間町 436
大早魃・地下資源の開発・工場誘致・
米の生産調整・その他の出来事

第四節 昭和五〇年代の三間町 443
地籍調査・圃場整備・全町水道・その他の出来事
第五節 昭和六〇年以降の三間町 449
運動公園の建設・まちづくりと活性化・
町民会館の建設

第二章 民 生

統計資料 452
歴代町長・助役・収入役 458
歴代議長・副議長・議員 460
概 説 473
社会保障・沿革・現在の社会福祉体制
第一節 児童福祉 476
児童福祉施設・保育所
第二節 高齢者福祉 479
現状と問題点・対策
第三節 障害者福祉と母子寡婦の福祉 482

障害者福祉・母子寡婦の福祉 483
第四節 生活保護 483
第五節 国民年金 485
第六節 同和問題と対策 488
概説・対策
第七節 保健と医療 497
概説・町内医業の沿革・医療施設・
疾病と死亡率の傾向
第八節 広域行政 499
変遷・美沼荘
第九節 VYS活動 501
第三章 交通・河川改修・通信・水道
第一節 交 通 514
道路・鉄道・自動車・自家用車の普及・
交通安全協会
第二節 河川の改修 517
三間川の改修・その他町内の河川改修
第三節 郵便・通信 523
郵便局の沿革・二名郵便局・有線放送・
防災行政無線放送・報道
第四節 水 道 523

第五編 産業・経済

概説・簡易水道・全町一円の水道
野村ダムからの導水
第四章 治安・消防・軍事
第一節 治安・警察・附官庁 528
沿革・官庁の出入機関
第二節 消 防 534
沿革・現在の消防団・水防
第三節 軍事・附自衛隊 539
徴兵制度・日清戦争・北清事変・日露戦争・
第一次世界大戦とシベリア出兵・満州事変・
日中戦争・太平洋戦争（太平洋戦争戦没者名簿）
自衛隊及び隊友会
第一章 農 業 563
第一節 沿 革 565
第二節 農 地 565
農地制度・第一次農地改革・第二次農地改革・
土地改良・交換分合
第一次農業構造改善事業・基盤整備事業・
県営圃場整備事業

第三節 農作業の変遷 585

耕起・代掻き・苗代と田植え・除草・病害虫防除・
収穫・調製・農薬の空中撒布

第四節 耕種 595

米・麦・菜種・甘藷・大豆・玉葱・いちじく・
花き・葉煙草

第五節 果樹 607

第六節 畜産 608

和牛・乳牛・養豚・養鶏

第七節 養蚕 613

藩政時代の養蚕・明治大正の養蚕・昭和以降の養蚕

第二章 農業協同組合

第一節 沿革 618

成妙農業協同組合・三間農業協同組合
二名農業協同組合

第二節 農協の合併 619

合併前の各地区内概況・概況・目的と事業・
合併迄の経過・合併の経過

第三節 合併以後の歩み 625

概要・出資金・内部の充実・営農指導・金融・共済・
農協婦人部・生産者組織

第三章 農業共済組合

第一節 三間農業共済組合と北宇和農業共済組合 633

第二節 宇和島地方農業共済組合 635

第四章 林業

第一節 沿革 636

御用木・御建藪・御竹役・御山役銀

第二節 造林 640

松喰虫防除

第三節 近況 642

山林・林道の整備・特用林産物・樹苗

第四節 林業関係団体等 646

第五章 商工業

第一節 沿革 648

第二節 商業 654

明治期・大正期・昭和初期・終戦前後・現況

第三節 工業 658

製糸・木蠟・焼き物・現在の工業

第四節 商工会 661

三間村商工会・三間町商工会・今後の動向・
商工会館の建設・みまの清良市

第六章 金融

第一節 沿革 668

土倉・無尽・頼母子・両替屋・個人貸借・高利貸
質屋・無尽会社から銀行へ

第二節 現在の金融機関 670

三間町農業協同組合・三間郵便局・二名郵便局
宇和島信用金庫三間支店・伊豫銀行三間支店

第六編 教育

第一章 維新前後の三間の教育 673

寺小屋私塾・指導法・教材・学習の時期と期間
教師の待遇

第二章 教育制度 676

第一節 学校教育 686

近代教育制度の創始・近代教育制度の確立と整備・
教育制度の拡充・戦後の教育改革・
新教育制度の整備充実・
新教育の反省と改革への台頭・第三の教育改革

第二節 社会教育 686

明治以前・明治期の教育・大正期の教育・
昭和初期・戦時下・戦後教育改革期・

新教育制度の整備充実期・新教育改革への台頭期・
第三の教育改革期

第三節 地方の教育行政 692

学制下の学区取締・教育令下の学務委員・
地方自治制度の成立・小学校令下の視学制・
小学校令下の学務委員・郡制廃止・
国民学校令下の学務委員・
教育委員会法下の教育委員会・
地方教育行政の組織及び運営に関する法律下の教育
委員会

第三章 三間町教育委員会 698

第一節 教育委員会の歩み 698

教育委員会の発足・教育委員・三間町教育委員会・
勤務評定書提出問題・成妙小学校通学区一部変更・
文化財保護条令の制定と第一次指定・
三間町誌の刊行・
教員住宅の建築と三間小学校の改築・
全校プールの建設・学校給食センター・
中学校統合問題・三間町教育振興会・
三間町遺跡詳細分布調査

第二節 教育委員会重点施策と今後の課題 706

教育委員会活性化の三つの観点。
 今後の取り組みと方針・今後の課題

第四章 小中学校及び幼稚園

第一節 成妙小学校 709

第二節 三間小学校 715

第三節 二名小学校 724

第四節 村立成妙中学校 729

第五節 村立三間中学校 729

第六節 村立二名中学校・町立二名中学校 730

第七節 組合立鬼北中学校・町立鬼北中学校 731

鬼北中学校設立の経過・学校の沿革

第八節 町立三間中学校 736

統合の経過・学校の沿革

付表 三間町内小中学校の系譜 741

第九節 三間幼稚園 743

幼稚園教育制度の概要・三間幼稚園の沿革

付表 児童・生徒数及び園児数の推移 745

第五章 県立三間高等学校 749

第六章 青年学校

第一節 総 説 756

青年学校の義務制・沿革

第二節 町内青年学校の概要 758

成妙青年学校・三間青年学校・二名青年学校

第七章 社会教育

第一節 総 説 760

実業補習学校

第二節 青年団・婦人会活動 761

青年団活動・婦人会活動

第三節 公民館活動 764

総説・その頃の公民館活動・各種学級の開設

図書館活動・部落公民館の建設

グループの集立ち・中央公民館新築

第四節 高齢者生き甲斐大学 768

経過・活動

第五節 P T A 770

第六節 三間町文化協会 773

経過・活動

第七節 三間町体育協会 775

第八節 同和教育協議会 777

発足と経過・学校における同和教育・

社会における同和教育

第九節 三間町文化財保護審議会 779

審議会の意義構成と役割・文化財指定手順の概略

第八章 三間の教育者 784

毛利元風・日下良昱・竹葉秀雄・岡本千戈・

有間重喜

第七編 宗 教

概 説 791

神道・仏教・キリスト教・生長の家

第一節 神 社 794

概観・神社一覧・神社記

第二節 教派神道 814

天理教・黒住教・金光教

第三節 寺 院 817

概観・寺院一覧・寺院記

第四節 仏教団体 835

創価学会・靈法会

第五節 キリスト教団 836

第六節 生長の家 837

第八編 文化財

概 説 839

第九編 民 俗

総 説 861

第一章 衣・食・住

第一節 衣 863

藩政時代・明治時代から昭和初期・戦時下・

戦後から現在・髪型・傘・履物・帽子

第二節 食 868

藩政明治大正・昭和前期特に戦時・戦後・酒

第三節 住 870

家屋の構造・間取り・付属建物・建具家具調度品

第二章 農耕行事 873

苗代ごしらえ・かいぞう・さなぼり・どろうち・

虫送り・田休み・道づくり・きりはえ・稻祈禱・

おこうざめ・雨乞い

第三章 民間信仰 875

荒神さま水神様・まつり神さま・はやり神さま・

オクヨさま・山伏・ヤマンバ・小豆とき・夜雀・

山犬・のがま・ジキトリ・エンコカワソ	
第四章 迷信・俗信	878
第五章 郷土芸能・遊芸・趣味	
第一節 郷土芸能	880
花踊り・鹿の子踊り・伊勢踊り・盆踊り	
第二節 遊 芸	892
オイベスマワシ	
第三節 趣 味	893
相撲・牛のつきあい・浄瑠璃・囲碁将棋・謡曲・	
華道・茶道・俳句・短歌・川柳	
第六章 冠婚葬祭	898
誕生・少年式・成人式・結婚式・年賀厄年・葬儀	
第七章 年中行事	901
第八章 口頭伝承	
第一節 俚 謡	910
総説・祝歌・麦打唄・田植唄・杵搦唄・白搦唄	
白挽唄・蕙打唄・機織唄・木挽唄・子守唄	
手鞠唄・童謡・羽根つき唄・亥の子唄	
第二節 方 言	920
第三節 名 字	922
第四節 伝 説	924

まつり神・音羽御前・かんじょう岩・衣笠石・
 袂石・大藤の丹後・龍の目玉・池の怪・おさん狸・
 麦白淵の河童・せんぐり食い

第一〇編 人 物

一、歴史上の人物	935
二、近代・現代の人物	937
国會議員・名哲町民・特別功労者・歴代町長	
県議會議員・功労者・官界・実業界・	
芸術文化スポーツ界	
付表「郷土史略年表」	945
引用文献	967
あとがき	969